

山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター センターだより 第9号 (通巻第76号)

2002年4月30日 発行
山梨大学教育人間科学部
附属教育実践総合センター
電話 055-220-8325, FAX 055-220-8790
e-mail:kjc@kjb.yamanashi.ac.jp
URL:http://www.kjb.yamanashi.ac.jp/

教育実践総合センター長に就任して

英語教育講座 教授 原田博

教育人間科学部附属教育実践総合センターは、この4月、教育臨床部門に待望久しい教授を迎えることができました。既に活発な活動を展開してきた情報教育研究部門の成田雅博氏、教育実践研究部門の林尚示氏に、新たに鳥海順子氏が加わりセンターの三本柱が揃うことになりました。更に、この9月には情報教育研究部門にもう1名の採用が予定されており、これをもってセンターの人材がすべて揃うこととなります。ここに至るまでの歴代のセンター長及び関係各位のご尽力に心から謝意を申し上げます。

同時に、センターといたしましては、文字通り一人前の働きを求められていく訳ですので、従前の整備途上に際し寄せられました温かい眼差しが、時に厳しい叱責に変わることも覚悟する必要があります。当面内部的には三部門にわたるより充実した組織の構築を目指しながら、他方外部に対しては地域社会から寄せられる教育上の様々な問題の克服に向けて絶えず適切な指針を示していく必要があります。この両立は決して易しいことではありません。センター長としての私の役目は、各教官にそれぞれの持ち味を十分に発揮してもらうことが、結果的に組織の成熟に繋がるよう配慮することと思われまふ。どうぞよろしくお願いいたします。

なお「教師のための教育相談」事業等で大きな功績を残された前客員教授手塚光彰氏の後任として、前浅川中学校長曾根修一氏が5月1日付で発令されることになりました。同氏につきましては次号でご紹介いたします。

教育実践総合センター教育臨床研究部門に赴任して

教育実践総合センター 教育臨床研究部門 教授 鳥海順子

私は、この4月より教育実践総合センターの教育臨床研究部門担当となりました鳥海順子と申します。今年の春の訪れは早く、私が赴任致しました4月1日には、雪をいただいた山々を背景に、桜と桃が咲き誇り、新しい職場に向かう私の不安な気持ちを和ませてくれました。学生たちがこのような自然豊かな地にある大学で学び、研究できることは大変すばらしいことと思ひます。山梨大学教育人間科学部はこれまで、県内を中心とする教育現場に、多くの優秀な人材を送り出してきたと伺っております。センターでは昨年度、山梨大学教育人間科学部教官による「教師のための教育相談」事業を新たに始めました。今年度もこの事業を発展させつつ、教育現場のニーズに合った事業をさらに企画し、展開していく所存ですので、何卒よろしくお願い申し上げます。

教育実践総合センター マルチメディア教材作成室の整備

教育実践総合センター 情報教育研究部門 助教授 成田雅博

教育実践総合センターの共通利用施設であるマルチメディア教材作成室が、平成 13 年度学長裁量経費により整備され、新年度から新しい機器の配置で利用できるようになりました。マルチメディア教材作成室（J号館3階 J322）には、Macintosh 42 台とソニー社製の LL 装置が平成 6 年度に導入され、全学の教職員、学生に利用されてきました。しかし、最近では機器の老朽化が問題となっており、平成 13 年度に「教育実践総合センター マルチメディア教材作成室整備計画」を策定しました。この整備計画の概要については以下の資料をご覧ください。

このたびこの新整備計画の一部が平成 13 年度学長裁量経費により実現しました。既設の Macintosh LC520 15 台を残し、Windows コンピュータ 8 台と液晶プロジェクター等を導入しました。導入した主な機器は以下のとおりです。また、平成 12 年度予算に山梨大学総合情報処理センター情報システムの一部として導入されたデジタルコンテンツ作成機器（SONY VAIO PCV-RX70K 2 台等）も同じ区画で利用可能です。これらの機器を使うことによって、ミニ DV テープなどに録画した動画をハードディスクに取り込み Premiere で編集することが可能です。昨年度のエル・ネット「オープンカレッジ」（衛星通信ネットワークを利用した公開講座）の山梨大学分の講座はこのシステムを使って編集されました。

マルチメディア教材作成室は全学の教職員、学生の利用が可能です。利用にあたっては、現在は教育実践総合センター事務室（J421 内線 8325）で利用申請書を提出していただき入室カードをお渡しすることになっていますが、今年度中に身分証明証、学生証で入室できるようになる見込みです。

主な導入機器

- ・ hp VECTRA VL420MT (Windows2000Professional) 7 台
- ・ hp NetServer E800(Windows2000Server) 1 台
- ・ モノクロレーザープリンター キヤノン LBP-1810
- ・ 液晶プロジェクター SANYO LP-XP45

資料 「教育実践総合センター マルチメディア教材作成室整備計画」から抜粋（一部削除）

4. 今後のマルチメディア教材作成室整備計画について

全学的には、一般的な教育目的に関しては、総合情報処理センターが管理するコンピュータ教室が利用できる。一般的な利用形態の授業や教育目的にはそれらを活用すべきであると考えます。

マルチメディア教材作成室においては、第 3 節で説明した実習ができる 15 人程度以内の教育人間科学部の授業を可能とする教室として整備することが適切であると考えます。その際、Macintosh のマルチメディア機能を活かした実習を行いたいという教官の要望もあることから、Windows に加え、Macintosh による実習も可能とすべきであると考えます。高等学校新教科「情報」教員養成に関しても、これらに UNIX を加えた複数の OS に関する実習を行っておくことも適切であると考えます。

以上の状況を勘案し、以下のような新方針でマルチメディア教材作成室を整備することとしたい。

教育の情報化プロジェクトに対応した、わかりやすいマルチメディア教材作成が可能な設備とする。高等学校新教科「情報」教員養成課程の実習用教室としても利用可能な設備とする。

Macintosh 15 台程度を教室の前半分、Windows 15 台程度を後ろ半分、PC-UNIX 数台を廊下側に配置する。

音楽・動画等の編集や、CG、アニメーション等を利用した学校等における子ども向け教材作成ツールと配信装置に加え、授業分析などに使える統計パッケージ、語学演習用ソフトウェア等が利用できるようにする。

センターだよりは、<http://www.kjb.yamanashi.ac.jp/pub/nl/> で見るすることができます。